



皆様明けましておめでとございます。昨年は早稲田大学ヨット部創立五十周年を記念して、五十年史の製作と祝賀会を開催しましたが、OB諸氏の有形無形の御援助により、大成功であったことは誠に喜ばしく、皆様の御協力に改めて感謝

早稲田ヨットクラブ

# 会 報

第16号

昭和60年1月 発行  
 発行者 事務局長 舟岡 正  
 編集・広報 石田 晋也  
 会費振込先 松島 弘行  
 第一勧業銀行 日本橋支店  
 普通預金 一四四五七三九  
 口座番号 ヲットクラブ 杉山博保  
 〇七セダヨットクラブ

明けまして  
おめでとございます

会長 小沢信二郎

する次第です。

早稲田ヨットクラブは、ヨット部OBの親睦とヨット部の発展に寄与することを目的としています。ヨット部の基盤を支えるものは皆様に御負担いただいております。年費、寄附金等の有形の御支援のみでなく、クラブへの関与、学生へのアドバイス等無形の支援も大切であると考えております。

今年早稲田大学ヨット部を強い部に仕立て上げるべき年であると思っております。OB諸氏の御支援を期待いたします。

### 年頭のご挨拶

副会長 中塚勝三

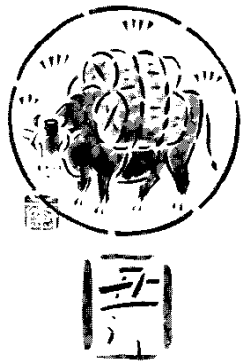
新春おめでとございます。昭和も此処に来て還暦となり日本史始まって以来の最長年暦を記録しました。日本人として大いに慶賀に耐えませぬ。

早稲田のヨットも昨年五十周年を記念し、記念史の出版や祝賀パーティーでクラブ員諸兄の団結を大いに固めました。その間世話役にあたった人々の献身的な

サービスは大へんなものであります。此の紙面を借りて厚く御礼申し上げます。我々のヨットクラブは利益集団ではなく若き日の情熱をヨットに傾け共に栄光を目指した仲間心の集団であるだけに、そのコミュニケーションはより純粋で強固なものであると信じます。私も記念史の出版にあたりましたが、戦災を受けた私の手もとは過去の資料は何一つなく、加えて関西に在任して何かと資料集めに不便である事など一時は全く自信のない有様でした。

然しお蔭様で次第に諸兄のご協力を得まして順次資料が集まる様になり、これで何とかいけると漸く出版に漕ぎつける事が出来ました。出来ばえについては種々ご批判はある事と思いますが、数名の方々からは良く出来たとおほめの言葉を頂き、これで良かったのかと安堵した次第です。ただ、記念史の性格上数量が限定されている為、単価が非常に高いものとなつた事はどうかご理解ご諒承の程お願い申し上げます。

私が此処で諸兄にお願いしたい事は、此の五十周年記念行事を再出発のスタートとして頂き、今迄疎遠にされて来た方も此の際大いに協力願ひ、此の心の集団を益々大きなものとされる事を切望して新年のご挨拶と致します。



### 50周年記念祝賀会

昭和五十九年十一月十七日(土)赤坂プリンスホテル・ロイヤルホールに於いて、午後五時より開催された。会場には早稲田大学各運動部の部旗十九流が掲げられ、来賓一〇七名ヨット部OB関係者一七三名学生約五〇名が参加、NHK大塚アナウンサーの司会で、にぎやかに盛大な会となった。

この記念行事の準備は七月の理事会よりはじめ、実行委員会の打合せは九月より五回行われ、会場進行係、受付係等は係ごとに別の会合を持ち、この会の成功に情熱を傾けた。

祝賀会の終幕は、応援部学生の指揮により校歌の大合唱となり、参会者の気分は益々高揚、同一会場にて引き続き二次会を開く有様であった。

当夜帰宅後早速この感激を詩として武村OBが書きとめて呉れたので紹介する。

見よ この杜観なるときを  
 老いも若きも ワセダもケイオも  
 肩をくみ高らかに唱う 都の西北  
 唱いつつ 叫びつつ  
 過ぎにし青春のひとこまが脳裏をかける  
 ああこの胸にこみあげる熱きものを  
 おさえるすべなし  
 これぞワセダの力なり  
 これぞワセダヨット総力の結集なり  
 機星霜の邂逅が輪となり  
 互いに肩を抱き若き日を語る  
 伝えんかな この活力を  
 伝えんかな このひとりのしじの光芒を  
 本来絶えることなく  
 早稲田ヨットの栄光のために  
 一九八四年十一月十七日深夜

武村洋一

# 皆さん、ご協力有難うございました

理事長 杉山博保

昨年は我がヨットクラブにとって大変意義深い年でありました。

一つは永年の念願であった50年史の完成を見た事であり、又一つは他校では絶対真似の出来ない50周年祝賀会を盛大、且、成功裏に終らせた事でした。

50年史については、我が早稲田は他校に負けない立派な、そして内容の充実したものをとの念願から56年秋に中塚先輩を編集委員長として委員会が出来活動を開始しました。

長い間大変な熱意をもって編集の労に当られた委員の皆様、そして寄稿下さったクラブの方々、配布に当りましてご寄附をお寄せ下さった皆様に心よりお礼を申し上げます。

私は編集委員には加わらず、理事長として資金面での側面応援という横から見守る立場でしたが、委員長を始め、委員の皆様の熱意と努力には本当に頭の下がる思いでした。特に実務面を担当した舟岡君のご苦勞はすぐハタで見ていただけに大変なものでした。

理事会の事務局長という私の女房役を兼務しながらのご苦勞は、私が無能なだけに大変だったと思います。又米田晴二副委員長も精魂を傾けての大活躍でした。東京を離れて居て何かと不便な立場をとめせず、その編纂にかける意気込みには心より敬意を表します。本当にご苦勞様でした。

さて理事会としましては、50年史の完成、発行とにらみ合せて、早稲田ヨット部創立50周年パーティーを催すという計画を立てておりましたが、漸く編纂の目度がついた昨年6月の理事会に於て、いよいよ祝賀会開催の実行委員会を組織する事を決定致しました。

私が実行委員長として人選を任せられたので、実際に動いてもらえそうな諸君を選び出し、実行委員として協力してもらう事にしました。

会場が決まると、主だった委員で下見をし、受付、武次第等、具体的な討議に入る事が出来る様になりそれから委員会は白熱を帯びた討議になりました。受付の名札をどうしようとかのこまかい面から、招待者をどの範囲に決めるかとか、武次第をどうするかとか大所高所、きこまかい配慮迄、熱心な話し合いの続く中で、皆が情熱を以って、何とか50周年パーティーを成功させたいという心情、熱意がひしひしと感じられました。いざ出来ぬパーティーにしようという委員の情熱がほとばしる様な会合が続きました。

さて当日、受付の長の加藤監督、進行の長の武村、サブの土肥を始め各委員、祝賀会が始まると思っても奇らぬ出席率に

目を見はり大喜び。一同、こんな苦ではなかったと、嬉しい誤算が目の前に展開した。日本ヨット界の重鎮を始め他校のヨット部、ヨットクラブ、早稲田体育会関係、その他諸々の我がヨットに關係のある方々の参列の多さに目を見はると同時に、我が目を疑った程であった。これは我々が準備を重ね、夢見た光景でありました。

小沢会長の言葉が始まり、最後まで大盛會。ヨットを語り合う多くの仲間を見て、あ、これで我々の使命が果たされたの喜びで一杯でした。

閉会の辞を述べてすぐ浜田の処へ飛んで行くと、彼もニコリ笑って、「杉山、費用は何とかなりそうだ」との言葉を聞いた時には思わず、浜田の背中をどやしつけて居た。実行委員の努力が実を結び、我々もどうやら大きな荷を肩からおろせたとと思ったとたん、その後は何処をどうして家に帰って来たのかまるでわかりませんでした。

五十周年のパーティーを無能な私と一緒に一生懸命にやって呉れた委員の皆さん本当にご苦勞さんでした。お礼と云うか、皆さんの情熱、努力、行動力に感謝致します。

しかしこれが、後の早稲田ヨットの行動力の原動力の源です。皆様の行動は現役学生が、目をもって見守って居りました。この早稲田の伝統がワセグの活力を引き継いでゆくものと思つて居ります。

ここで私達も六十年来を迎えるに当って昨年のビッグイベントに情熱をそそぎ、これを達成した部は評価されても良い事と思ひますが、ここでヨットクラブ本来

の使命にもどるべき機会と思つて居ります。大きな事業を成し遂げた者はそれなりの情熱でもあり、又総意の結果でもあると思ひます。

この皆様の団結を基に現役学生の指導育成に打込み、早稲田ヨットの伝統と、潮気のある早稲田ヨットマンの情熱を受けつがなければと思つて居ります。私達理事会を通して、色々を意見、ご希望等如何なる事でも建設的なご発言を理事会では待つというより歓迎致して居りますので是非参加をお願い致します。

最後にクラブ運営に關しまして皆様方の会費が唯一の財源となつて居りますので、年会費、一年一回の一万円ですが、これが集まるかどうかによって私達の皆様に対する活動が出来るかどうかの瀬戸際でがんばつて居ります。早稲田ヨットクラブの運営の為にヨット部の援助に關しましては、皆様の会費だけで運営出来、寄附等はなるべくお願いしない様にして行くつもりで居りますので、理事会、実行委員会の会合の費用はそれぞれに、出席者がワリカンでやつて居ります。クラブの会計からの出費は、ほとんど学生の援助で消えてしまいます。消えるどころか不足がちで、OBの皆様は寄附を仰ぐという様な事になってしまい、それらはどうしても若いOBにしわ寄せが行つてしまう様な現状です。

新しい年を迎え、我がヨットクラブも財政的にしつかりとした基盤をと考えて居りますので、今後とも皆様方のご協力をお願い申し上げます。

五十年史「寄付一覽」現在

- ⑬は卒業年度。(4)数字は単位一万円。  
 ⑬小暮 松山⑭増井 新名 山田直  
 阪原 山田金⑮永元 長医 田原 間瀬  
 ⑯堀 中塚 西原 堀江 山下 高橋  
 石川 相川 大森 高木⑰岩崎 大井  
 古田 佐藤 平野 土屋 佐伯⑱出窪  
 発生川⑲古市 能勢 渡辺 金子 菊川  
 ⑳坪田 仲山㉑野木 林㉒清水 木村  
 横田 久留島 小柳㉓加藤 犬伏 林㉔  
 湯沢 宮本 新井㉕石川 伊井㉖渡辺⑶  
 漆原 小保 中村㉗木本 小泉 山口  
 石垣 古川㉘河村 村瀬 石井 円谷  
 天神 大塚 佐伯 見玉 大津㉙安藤  
 米田晴 石川 金沢 米田秀 麻野㉚  
 松本 是枝 遊佐 浜田 高島 岩本  
 千葉 浅山 齊藤㉛舟岡⑸ 杉山⑹ 佐  
 藤 日色 伊藤 誉田 安井 鈴木㉜天  
 神 中田 武村 山崎 長崎 山県㉝清  
 水 加藤⑷ 岩沢㉞岡村 山品 大河内  
 泉 並木 原口 高橋㉟菅山 大野  
 池田 尾崎㊱原田 古田 土肥⑶ 吉川  
 原 西川 鈴木 足立 平塚㊲原田  
 石田 小沢 伊藤秀 伊藤曉 角田 渡  
 辺㊳木村 安藤 土居 山崎 佐野 中  
 島 倉谷 川島⑶㊴志智 古内㊵山中  
 大 小嶋 守屋 松島 山本 若松  
 生田 田中 杉山 木内㊶滝 頼 小浜  
 森 小坂 齊藤 石井 長沢 江上  
 清水 八藤丸 岡田 岡部㊷岡戸 豊田  
 金刺 石合 石川 中村 千津井 佐  
 々木 栗原 大原㊸尾本 冬至 和田㊹  
 高須 山内 伊藤 長谷川㊺大矢木⑩  
 北島㊻班目 武藤 菊地 原田 福島  
 宮木 竹下㊼三枝㊽杉井 中川 宮本  
 矢野 春日 平戸 千把㊾早川㊿藤井  
 赤松 恒川㊽大島 庄司㊿角田 川瀬

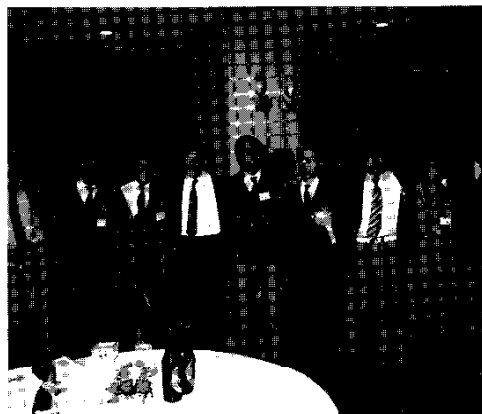
ヨット部50年史特別会計収支報告

59.12.31 現在

収入の部		支出の部	
50年史寄付金(255名)	5,240,000	50年史製本代(大日本印刷)	
杉山、舟岡理事立替金	1,000,000	第1回支払(%)	3,300,000
クラブ一般会計より繰入	525,260	第2回支払(%)	3,200,000
		50年史発送代(大日本印刷)	
		第3回支払(%)	263,660
		送金代(3回分)	1,600
収入計	6,765,260	支出計	6,765,260

会計：浜田  
監査：横田、千葉

- 岩崎㉛渡辺 野口 齊田 酒井 貝出  
 大原 石川 角田㉜庄島 小川 松下  
 北川㉝坂爪 喜多内 井上 伊熊 市村  
 伊能 白石 杉原㉞川上 中島 河瀬  
 風間 戸枝 地曳 長谷山 橋 香出  
 ⑵端 長瀬 小池 石渡 芝崎㉟鎌田  
 黒田 森田 小出㉙黒田 坂東 小野  
 市井 佐々木 三好 松本 ⑴矢頭部長  
 三原タミ 上田通子 山口 (敬称略)  
 以上三五五名 合計五二四万円



●礼状紹介

50年史謹呈や祝賀会招待等で沢山の礼状が事務局に届いております。  
 その一部を紹介致します。(舟岡) 東大OB 清水英夫様よりの礼状

早大ヨット部OB会様

拜啓初秋の候益々御隆昌に涉らせられ、大慶に存じ上げます。  
 扱て昨日には、早稲田ヨットクラブ五十年の航跡を御恵送賜り御芳情洵に有難く、厚く御礼申し上げます。  
 五十年前、学生ヨットの草分けの一人として、小沢信、平松両君と共に、学生の手による学生ヨットを日標に各校力を合わせて錬磨した当時を顧みますと、今日の学生ヨット界の盛況は夢のようで、五十年という歳月の偉大さに改めて感無量なものがあります。早大ヨット部も体育会公認前は財政的に苦しく、同じく非公認だった私共東大と同じ悩みを歎き合

つたものでした。  
 私の知っている顔の藤村、田原、宮川等の諸君(今の顔は存じませんが)の写真もなつかしく拝見いたしました。殊になつかしかったのは毎年の早慶戦の戦績でした。

第一回の早慶戦の帆走委員長を、小沢信、平松両君から依頼されて以来、戦前の早慶戦の帆走委員長は凡て私が委嘱されたことは、私にとっても想い出深い出来事でした。

両校にとって学校的に中立的立場にあったことからの依頼だったと思いますが、毎回敗れた側の部員からは罵声を浴び、小港のバス停までの無事も保証されないような有様で、もう二度と引受けるものかとむくれて帰ったものでしたが、翌年両校キャプテンから辞を低くして依頼されると又引受けてしまい、結果は同じことの繰返しでした。当時でも、我れながら何で毎年引受けるのか、あきれていたような始末でした。

お名前を知っている多くのORたちの寄稿文が満載されておりますので、昔を想い浮べながら読ませていただく所存でございます。

立派な五十年史編集には、さぞ御心労も多かったことと拝察いたしますが、出来上ってみますと、後世代への金字塔として洵に貴重なもので、自校を顧み羨ましく存じております。  
 年末筆早大ヨット部の隆昌を祈念いたしております。

右取敢えず、御礼までに申し上げます。  
 敬具

昭和五十九年十月五日

東大ヨット部OB

清水英夫

50周年祝賀パーティー

OB出席者(会費寄付)一覧

⑧は卒業年度。(2)は出席者数。△印は欠席なれど寄付。(30)数字は単位千円。

⑧小沢忠⑩小沢 淳⑫山松山△(30)

⑭新名 山出⑮永元 永田 両角⑯堀中塚 堀江 高木 千勝 石川⑰平野⑱出窪 発生川⑲渡辺⑳坪田 野木 林⑳横田 小柳 木村 久留島㉓夫伏 加藤㉔湯沢㉕伊井㉖渡辺 秋山 小俣㉗木本 石垣 山口㉘石井 村瀬 大塚(3) 大津 出谷 河村㉙米出晴 金沢 安藤 石川 麻野㉚是枝 浜田(2) 千葉 遊佐 松本 中沢 岩本 佐伯㉛杉山(3) 舟岡(2) 日色 鈴木 安井㉜山崎へ 武村 中田 天神㉝加藤 清水(2)㉞並木 高橋 内藤 関根 北河 原口㉟菅山 尾崎㊱土肥(2) 吉川 原田 足立 原 平塚㊲石田 渡辺 伊藤秀㊳木村(2) 倉谷 安藤 土居 中島 出㊴松島 大(2) 杉山 山中 木内 小嶋 若松△ 山本㊵滝 清水 長沢(2) 石井 小坂 森 岡部 頼㊶千津井 佐々木 中村 岡戸 石合㊷和田 冬至㊸伊藤 長門 高須 長谷川 山内㊹大矢木(2) 北島㊺菊地 福島 竹下 藤田 大島(2)㊻杉井 春日 平戸 新沢㊼赤塚 藤井㊽岩崎㊾大原 橋本 渡辺㊿松下 北川㊽坂爪 市村㊾中島(2) 嵐間 長谷山 橋 地曳 後藤 小池 芝崎 石渡 埴 松田(2)㊾鎌田 黒田㊿里田 小野 坂東 市井 佐々木 松本 三好 早風会・小島△(30)青柳△(30) 手塚△(20) 羽生△(5)

以上一七八名(敬称略)

来賓者寄付金

△印は欠席。( )内数字は単位千円

(財)日本ヨット協会戸田孝昭(10)・竹下政彦(10) 都連大村泰敏(5) 高専海難審判行 林至(10) 船舵社十肥由夫(20) 日本四七〇 協会(20) 日本FJ協会(10) 日本スナイプ 協会(10) アリカトレーディング(10) 岡本 造船所岡本豊(10) 高橋商店高橋重雄・文 子(20) クボタ洋服店窪田勝治(10) 高田牧 舎(10) 永田運動具店△(10) 渡辺政久(10) ヤマハ発動機(株)(50) 葉山珠屋(20) オクム ラポート△(20) 大原弘山製帆所大原セイ 子△(20) 慶応三田ヨットクラブ(50) 同志 社大学ヨット部OB会(50) 関西学院ヨッ ト部OB会(50) 関西学院OB花崎賢吾(10) 関西学院OB塩路一郎(10) 関西学院浜水 (5) 東京大淡青セーリングクラブ(10) 清 水英夫(10) 明治大学ヨット部(50) 法政大 学ヨット部(30) 法政ヨットクラブ松岡(10) 中央大学ヨット部OB会(10) 関東学院 大ヨット部監督岡昌憲(10) 日本大学ヨッ ト部OB会(50) 杉山部長(20) 島谷栄(20) 松田健次郎(10) 横浜市大監督小山泰彦(10) 学習院大三輪勝久(10) 九州大帆友会矢 吹秀邦(10) 立教大OB会長田生進(20) 柳 下達三(10)

早稲田大学体育関係

早稲田大学体育関係

早稲田大学大育局(10) 早実沖正夫(10) 加藤進 ラグビー部(10) スキー部(10) 稲 門自動車クラブ部長渡辺(20) 稲門ホッケー クラブ(10) フェンシング部(10) 稲光会 (10) 稲門自転車クラブ(30) 菅原光明(20) 稲門ワンダーフォーゲル会手島宏(10) コ ルフ部監督吉野統治(10) 合気道部(5) 稲 弓会々長荻野優(20) アメリカンフットボ ールクラブ会長加賀山外与雄(30) 鈴木義 弘(5) ボクシング部出原万三(10) ハンド ボールクラブ会長宮崎慎六(10) 稲門テニ スクラブ河尻慎(10) ボート部OB谷古茂 (10) 柔道クラブ会長浜本悦二郎(30) 射撃 クラブ羽山茂徳(30) パレーボール部監督

ヨット部50周年記念祝賀会特別会計収支報告

S 59.12.31

収入の部		支出の部	
OB会費 174名 (遺族・家族及び寄付を含む)	1,760,000	宴会費(赤坂プリンス)	1,882,340
早風会寄付(4名)	85,000	酒代及び飲物	210,600
来賓者寄付	1,205,000	記念品代(御礼・送料代含む)(400)	683,600
クラブ一般会計より繰入	123,440	祝賀案内状印刷代(700)	93,800
		宛名代筆代	24,100
		ベナント・感謝状代(2)	75,660
		早稲田大学各運動部への依頼状 (印刷・通信費)	25,600
		宴会のアシスタントへのお礼 (女子20名、司会、写真、応援部)	155,000
		雑費(名札、領収書、振込料、その他)	22,740
<b>収入計</b>	<b>3,173,440</b>	<b>支出計</b>	<b>3,173,440</b>

会計 浜田・中島 監査 横田・千葉

古市英(10) 競走部(5) 軟式庭球クラブ和 田元夫(10) (敬称略)

ヨットクラブOB総会 新年会開催のお知らせ

恒例の新年会を兼ねたOB総会を左記の通り開催致します。OB諸兄には是非ご参加下さい。(理事長 杉山博保)

一、議題

- ①昭和五十九年度決算報告
- ②昭和六十年度事業計画
- ③ヨットクラブ新役員承認
- ④ヨット部新役員承認 その他

二、日時

昭和六十年二月十六日(出)(四時より)

三、会場

横浜ヨットクラブ(岡本造船所内)

(電)〇四五(六二三) 九六二〇

四、会費 六千円(家族は三千円)

同封の返信ハガキはお早目にお出し下さい。

ヨット部59年度戦績

春季六大学・スナイプ5位、四七〇2位、総合2位 春季インカレ・スナイプ5位、四七〇4位、総合3位 早慶戦・勝 同志社戦・負 全日本インカレ・スナイプ10位、四七〇10位、総合7位 秋季インカレ・スナイプ予戦落ち、四七〇5位 秋季六大学・スナイプ3位、四七〇2位、総合2位 新人早慶・負

60年度会費とご寄付のお願い

早稲田ヨット部への援助と、私達のクラブ運営のため、今年も年会費一万円と何分のご寄付をお寄せ下さるようお願いいたします。尚、振込の際明細内容をお書き下されば助かります。

主務 野本久(社) 学連 芹沢佳津也(社) 副将 瀬戸浩之(教)

59年度就職状況

小山良仁(二文) 大学院進学、若月英宏(社) 日本テレビ放送網(株)、和田博英(社) 帝人(株)、梅原浩一郎(政) 未定、瀬川洋二(教) 未定。

◎60年度ヨット部新役員(予)

主務 入江 彰(政)

主務 野本 久(社)

学連 芹沢佳津也(社)

副将 瀬戸浩之(教)